

昭和二十年の学校日誌



新川小学校に残る「昭和二十年の学校日誌」に、空襲直後の様子が記されている。

[illegible]

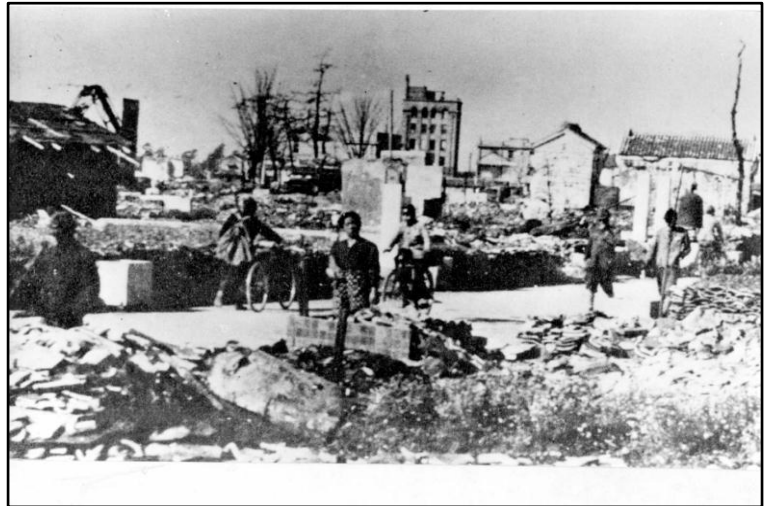
【昭和二十年六月二十日】

A 大空襲 昨夜十一時半ヨリ大空襲
 アリ 小型焼夷弾驟雨ノ如ク降り□

B 戦災者百数十名 各教室ニテ宿泊

《先生の悲しい死》

空襲後の避難所となった本校では、高橋五郎校長が、被災者の収容対応と学校教育の正常化に尽力していた。他の職員数名とともに学校に泊り、対策や処置の指揮をとった。しかし、流行する赤痢患者の看病にあたる中で自身も赤痢に倒れ、昭和20年7月15日、自らの学校の床で息絶えた。



豊橋大空襲後の札木通り

豊橋大空襲から約2か月後の昭和20年8月15日正午、天皇陛下の玉音放送によって長かった戦争にピリオドが打たれた。終戦時の本校の様子も、学校日誌に記されている。

事 記 直 宿				事		記		昭和廿年八月十五日水曜日晴	
名 件 付 受		引 職 午		時 分		引 渡 午		時 分	
難 警 及 巡 視 件 衛 雲 件 者		午 時		分 宿 直 者		時 分		午 時	